

『国際看護学—— グローバル・ナーシングに向けての展開』 地球規模の視点から新たな 健康課題をとらえるために

監修：南 裕子／編集：新川加奈子・神原咲子・大野夏代
定価：本体 2,700 円 + 税／発行：中山書店／TEL：03-3813-1100



本書は、グローバル・ナーシングを担う若者に役立つよう、グローバル・ナーシングの中核の考え方から、取り組みの具体、さらにキャリア開発までを多面的にまとめた書籍である。特徴は、グローバル・ナーシングを広い視野でとらえ、かつ身近で起こっているグローバル・ヘルスの課題に対し、看護職としてどのように取り組めるかを、概念の解説はもちろん、具体的な活動を事例で示していることである。さらに、グローバル・ヘルスを地球上に生きる人々の健康ととらえ、そのグローバル・ヘルス・イシュー(健康課題)に対し、チームでの看護職の取り組みが可能となるよう、さまざまな局面(文化、貧困問題と社会制度、グローバル・イシューの情報分析方法、そして介入としての教育、看護活動など)が展開されている。

1章では、グローバルな看護活動の前提となる課題をPPE(population-poverty-environment；人口問題-貧困問題-環境問題)の悪循環から派生する健康問題としてとらえ、またグローバル・ナーシングを「地球上に住む全ての人に健康と幸せをもたらす」グローバル・ヘルスの目的の実現に向けて、看護職の立場で参画・取り組むものと定義し、個人あるいは政策にアプローチし、地域の医療・看護システムを改善するはたらきを概説している。

2章では、地球上の人口移動から派生する異文

化・多文化あるいは在日外国人の保健問題と看護を総論として、保健問題、保健システムを概説し、看護の具体が理解できるよう事例も展開している。

3章では、貧困と健康格差の発生のメカニズムや、貧困問題を改善するための社会制度・看護制度の導入活動とその意義について述べている。

4章では、看護介入の基礎として、グローバル・ヘルスの情報分析・計画、そして評価を概観し、方法論としての疫学的重要性を述べ、海外での感染症対策などの情報分析例を紹介している。

5章では、介入方法としての健康教育・保健教育と看護のかかわり、ソーシャル・イノベーションの概念と看護教育の今後の方向性を論じている。

6章では、看護職のキャリア開発につながる国際協力の枠組みと看護の活動方法を紹介している。

最終章の7章では、国際的な視野をもつ看護師になるためのキャリア開発の道筋が記されている。

本書は、看護職を目指す人が地球規模の視野をもち、すべての人々の健康が実現できるよう力量を養う基礎情報になると考えられる。これらの情報をもとに、さらにグローバルな視点で健康を考え、看護職として健康格差の是正に貢献されることを期待したい。